



# JPI催しのご案内

**2025**  
**9**

公益社団法人日本包装技術協会

**— 2025年度の本催しについて —**2025年度につきましても引き続きウェビナー（WEBセミナー）で  
皆様に情報発信をさせていただきます。**●開催要領****日時** ①令和7年9月16日(火) 14:00～15:30 / ②令和7年9月26日(金) 14:00～15:30

★2025グッドパッケージングフォーラム ▶ 令和7年9月17日(水) 13:30～15:20

**参加費** JPI法人・個人会員：無料／一般：11,000円(1部会、税込) **定員** 300名**①令和7年9月16日(火) 14:00～15:30****JPI本部主催****【テーマ】包装機械投入前後工程における自動化の課題と視触覚技術導入による実現可能性について**

食品製造業において、自動化の代表格が包装機械であるが、中小企業の場合、包装機械への食品の投入・包装後の番重詰めなどについては、人の手作業となっている。  
その自動化ニーズについては、多数あるがいくつかの障壁により自動化実現が困難になっている。課題としては、食品という“脆い”、“個体差がある”、“不定形”なワーク特性によりロボットやアクチュエータによる把持が困難になることがある。また包装機械のスペックに対して、ロボットや機械による投入スピードが追いつかないという問題もある。  
食品ハンドリングはロボティクスの業界においては、非常に難易度が高い課題となっており、この分野については研究開発が多岐にわたり実施されている。  
FingerVisionは画像処理をベースにした、“視触覚”技術をベースに食品ハンドリングを実現しており、自律的に動作する盛付ロボットシステムやフライ投入ロボットシステムの現場実装を実現している。  
本公演では視触覚技術についての紹介と、様々なワークのハンドリング例の紹介、包装機械との連動を見越したアプリケーション例の紹介を行う。

【講師】株式会社 FingerVision Chief Revenue Officer

角谷 雄一氏

**②令和7年9月26日(金) 14:00～15:30****JPI関西支部主催****【テーマ】“未来のレモンサワー”レモンライス装入システムの開発**

2024年6月11日、“世界初”本物レモンライス入りRTD『未来のレモンサワー』を発売。エリア限定・数量限定品ながら発売後すぐに大きな話題となった。本商品の量産化にあたって、弊社は大きな技術的なハードルに挑戦した。レモンライスを高速で安定的に缶の中に装入する技術・設備が存在しなかったことから、独自にシステムを開発するに至った。開発にあたっては、充填メーカー、機器メーカーとの共創によってこの課題をクリアし、量産製造技術の確立と商品化を実現させた。

【講師】アサヒビール株式会社 パッケージング技術研究所 開発第二部・副課長

神山 直也氏

**申込要領**

- ◆お申込は当会ホームページより、先着順とさせていただきます。
- ◆お申込みが定員に達した場合、一社における参加人数に制限を持たせて頂く場合があります。
- ◆お申し込みは、JPIWEBフォーラム開催3日前までお願いいたします。

**個人情報の取扱いについて**

- 1) 個人情報は「公益社団法人日本包装技術協会 JPIWEBフォーラム」の事業実施に関わる資料等の作成、ならびに当会が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。
- 2) 参加申込によりご提供頂いた個人情報は、法令に基づく場合等を除き、個人情報を第三者に開示、提供することはありません。

**参加申し込み方法と注意事項**

- ・本催しはwebを使用したオンライン講演会（ウェビナー）です。
- お申し込みは、当会ホームページのJPIWEBフォーラム参加申込ページよりお願い致します。申込者にはウェビナー開催の2日前頃に招待メールをお送りします。**メールアドレスの入力を間違えてしまうと登録できずメールを送付できません**のでご注意ください。
- ・招待メールにて**参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項**をお知らせしますので、ご確認の上参加の準備を進めて下さい。
- ※**ご利用のメールアドレスの環境・設定によっては迷惑メールに振り分けられる場合がございますので、ご注意下さい。**
- ・申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1名しか参加できません。
- ・その他注意事項などにつきましては当会ホームページ上よりご確認の上、参加登録をお願い致します。

当会ホームページ URL : <https://www.jpi.or.jp/>**◆お問い合わせ及び各種催しの申し込み先◆**

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F  
公益社団法人日本包装技術協会 担当：坂本 TEL.03-3543-1189 FAX.03-3543-8970  
●JPI催しのご案内はインターネットでも公開中です。 URL <https://www.jpi.or.jp/>

# 2025グッドパッケージングフォーラムのご案内

－ 令和7年9月17日(水) 13:30～15:20 －

プログラム		
時間	講演内容	講師
13:30 ～ 14:00	<p>《ジャパンスター賞》</p> <p>●「イプサME」環境負荷低減と情緒的価値の両立</p> <p>化粧品パッケージにも他の業界と同じく持続的な環境保護対応が求められている。化粧品パッケージは、中でも特に情緒的価値を高く求められているが、環境保護への対応は、そういった情緒的価値と相反する要素も多いため、各社対応に苦慮している。</p> <p>資生堂は、「Premium/Sustainability」という方針の元、独自の容器包装開発ポリシー「資生堂5Rs」に基づき環境保護と情緒的価値の両立実現を進めている。その中でも近年は特に容器をつけかえる技術の進化に力を入れている。今回イプサで発売する化粧液MEでは、環境負荷低減を実現するだけでなく、環境貢献実感や使用時の心地よさなどを付与することで新しい価値創りを両立、実現した。</p> <p>今後環境負荷低減対応は当たり前となっていく中で、こういった開発事例が容器包装技術の発展の参考になることを目指して、本フォーラムで紹介する。</p>	株式会社 資生堂 研究員 小橋 佳彦 氏
14:10 ～ 14:40	<p>《ジャパンスター賞》</p> <p>●易剥離接着剤を活用したリサイクル性を向上させたつめかえパウチの開発</p> <p>スタンディングパウチは、要求される性能を確保するためにポリオレフィンやナイロン、PET等の異なる素材から構成される積層フィルムとなっている。その一方で、各フィルム同士が接着剤等により強固に貼り合わされているためフィルム同士を分離することが容易では無く、質の高いマテリアルリサイクルを阻害する要因の1つとなっていた。</p> <p>そこで当社は、東洋インキ(株)と連携し、積層フィルム同士を簡便に分離し、高品質なポリオレフィンフィルムを確保可能な易剥離接着剤を活用したリサイクル技術を新たに確立し、その技術を用いてリサイクル性を向上させた環境対応つめかえパウチの開発に繋げた。</p> <p>本パウチではフィルム同士を分離し易くするための易剥離性と生活者が使用するまで内容物を保護するための耐剥離性といった、相反する機能を両立する必要があった。アルカリでの加水分解反応によって接着力が低下する成分（易剥離性向上）と界面活性剤による層間剥離抑制のための成分（耐剥離性向上）の最適な組み合わせを選定した易剥離接着剤を開発し、従来パウチと同等レベルの包材品質を実現した。</p>	ライオン株式会社 研究開発本部 パッケージ開発研究所 花田 真一 氏
14:50 ～ 15:20	<p>《ジャパンスター賞》</p> <p>●海外向け自動車部品インジェクター集合包装改善</p> <p>インジェクターの集合包装に於いて、プラスチック包装資材を全て廃止した包装仕様を開発した。</p> <p>従来はプラスチック包装資材(樹脂トレー、ミラーマット等)を使用して製品を横向きにして収容していたが、新仕様では段ボール固定材に製品を縦向きに収容する。</p> <p>ミラーマットで製品を保護する作業から、製品を穴に差し込むだけの作業になり、梱包・開梱作業性を高めた。</p> <p>また、段ボール化することで樹脂トレーでは不可能であった、充填率の高いレイアウトを実現し、収容数が96→120へ増加した。</p> <p>本改善によって、①充填率25%向上 ②プラスチック使用量100%削減 ③梱包作業時間65%削減 ④包装資材費64%削減を実現した。</p>	スズキ株式会社 生産計画部 梱包設計課 小田切 洸貴 氏